

# Forest 群馬県森連時報 vol.504

【発行所】  
群馬県森林組合連合会  
前橋市上大島町182-20  
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】  
株式会社総合PR  
前橋市元総社町936-4  
TEL.027(253)8331(代)

## INDEX

|                   |     |                 |       |
|-------------------|-----|-----------------|-------|
| 第88回通常総会 開催       | 1~2 | 森林組合職員連盟        |       |
| 森林組合長・参事会議 開催     | 3   | 視察研修(宮城県) 開催    | 7~8   |
| 森林組合参事・課長会議 開催    | 3~4 | わたらせ森林組合作成      |       |
| 令和5年度 伐倒技術者育成講習   |     | 木製キャンバスを彩る作品    | 9     |
| Check&Clinic研修 開催 | 4~5 | アフリカ モザンビーク国からの |       |
| 第2回 森林組合          |     | 研修生受け入れ         | 10    |
| 労働安全対策会議(Web) 開催  | 6   | 県森連 人事異動及び機構改正  | 11~12 |
| R5緑の雇用事業実施状況      | 6~7 | あとがき            | 12    |

## 第88回通常総会 開催

去る6月23日に、県森連会館研修室において第88回通常総会を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3年ぶりに来賓を招きコロナ前同様の開催となった。

県森連八木原会長の挨拶に続き、群馬県知事(代読:環境森林部 須田部長)、群馬県議会議員 川野辺副議長らから祝辞を頂いた。

主要な事業活動の内容は以下の通りである。



▲通常総会



▲八木原会長  
あいさつ



▲群馬県知事  
(環境森林部 須田部長)



▲群馬県議会  
川野辺副議長

1) 全体の事業収益は対前年比16,174万円増の108%となった。うち指導部門では373万円増の107%、販売部門で21,028万円増の120%、加工部門で3,010万円減の93%、森林整備部門では2,216万円減の95%、当期剰余金が916万円となった。

2) 主要事業である販売部門のうち、共販事業は対前年比692㎡増の105%、買取販売の売上材積民有林システム販売(直送)事業は対前年比1,869㎡減の92%、渋川県産材センターの販売事業では、対前年比3,589㎡増の204%となった。

3) 加工部門における渋川県産材センター事業では、製材品販売量2,206㎡減の対前年比72%であったが、加工チップ販売量は製紙用3,799トン(BDT)、燃料用10,279トン(ADT)であり、特に系統加工生産チップも加えた燃料用チップ販売量は43,197トンとなった。

4) 森林整備部門について、調査設計事業のうち森林調査は森林経営管理事業と合わせて対前年比322万円減の94%、林道は1,284万円減の30%、治山は2,249万円減の84%、森林病害虫防除は115万円減の89%となった。

5) 購買事業について、事業物資で対前年比2,900万円増の113%、生活物資で58万円減の85%、皆伐・再造林の推進により苗木事業では314万円増の106%となった。

6) 指導部門では、系統運動「J Forestビジョン2030～地域森林の適切な利用・保全と森林経営の更なる発展に向けて～」の推進及び会員組合の運動目標達成に向けた指導を行っ

た。また、木材SCMシステムの運用と更なる利便性向上のためのシステム追加開発に取り組んだ。さらには、森林環境譲与税の有効活用として森林経営管理制度の推進に向け、市町村に積極的に働きかけを行い意向調査・森林調査・境界明確等の業務を受託し会員組合との連携により業務を実施したと報告した。

以上

議長には、下仁田町森林組合 石井薫組合長が選任され議事の進行を行った。令和4年度事業報告・貸借対照表・損益計算書・剰余金処分案・注記表及び附属明細書承認等が上程され、全議案が可決された。

最後に、永年勤続職員表彰、購買事業表彰、渋川県産材センター表彰が行われ、総会は閉会した。

- 永年勤続職員表彰 松島弘幸 (30年)
- 購買事業表彰 吾妻森林組合  
利根沼田森林組合  
赤城南麓森林組合
- 渋川県産材センター事業表彰 吾妻森林組合  
烏川流域森林組合



▲表彰のようす

## 高性能林業機械 レンタルします

● レンタルのニッケン



ザウルスロボ

フォワーダ

プロセッサ

グラップル

ハーベスタ

## 森林組合長・参事会議 開催

去る7月27日に「第1回 森林組合長・参事会議」を群馬ロイヤルホテルにおいて46名の参加で開催した。



▲県林業イノベーション推進室 影澤室長

最初に群馬県環境森林部 林政課 イノベーション推進室 影澤室長より環境森林部予算と群馬県の林業の課題について説明があり、今後の群馬県の林業イノベーションの方針として5つのテーマ

- ①森林のゾーニング
- ②林業経営の集約化
- ③スマート林業の実践
- ④森林の新たな価値の創出
- ⑤投資を呼び込む新たな林業

を推進し「関東一の林業県」の実現を目指したいと述べられた。

また、今年6月に発生した3件の林業現場における労働災害発生を受け、群馬県では3月に続き「林業現場作業の災害・事故多発警報(令和5年7月18日～9月30日)」を発令した。この警報発令について群馬県林業振興課生産力強化係 荒井係長より説明があり、発令期間中の緊急指導や現場安全パトロール等を実施のほか、経営体による自主安全パトロールや一斉自主点検の実施の呼びかけ、安全対策及び事故防止



▲県生産力強化係 荒井係長

対策の徹底を図るよう説明が行われた。

続いて、県森連指導部よりJクレジット制度と森林組合の具体的な対応として、制度概要の説明のほか、クレジットの認証・発行への手続きやモニタリング(森林吸収量算定)実施内容、森林管理クレジットの収支イメージと収益活用や、取組む上での留意点について、具体的な説明が行われた。

会議の最後には、令和3年度より取り組んでいる系統運動の県内森林組合の実践状況について説明が行われた。森林経営管理制度の市町村における活用と実施状況、新たに主伐・再造林へ取組んだ森林組合の実施状況やタワーヤードを活用した実証事業への取組みのほか、林産・販売事業等の促進としての定期的な会議の開催を通じた組合間の情報共有やクラウドシステムを活用した日報管理や収支管理の効率化を図った取組などについて報告があった。また、森林組合の経営強化と健全化向け、県と連携を図り組合毎の意見交換会の実施や異業種との連携などSDGsの貢献などについての説明が行われた。



▲組合長・参事会議

## 森林組合参事・課長会議 開催

去る5月22日、「森林組合参事・課長会議」を群馬県勤労福祉センターにおいて総勢43名の参加で開催した

初めに全国森林組合連合会 林政課 早瀬課長より森林経

営管理制度における全国での取組み状況や活用例の紹介及び制度活用の実務ポイントについて、市町村の固定資産課税台帳情報の内部利用による林地台帳整備などの活用方法について説明が行われた。

続いて、本年10月より導入予定のインボイス制度についても早瀬課長より、制度の概要から対応方法や税額控除特例などの説明が行われた。そして、森林組合系統としてインボイス制度への対応として、林産・販売事業の取引における課税事業者と免税事業者における対応や事前準備の必要性などの説明が行われ、各森林組合において制度導入に向けた対応方針の検討をお願いした。



▲全森連 早瀬課長

続いて、県森連及び森林組合の林業イノベーションの実践状況について、県森連クラウドシステムの運用状況のほか、今後導入予定のドローン画像解析による材積・施業面積測定ソフトの活用提案等の説明が行われ会議を終了した。



▲参事・課長会議

次に、県森連 高橋指導部長よりJクレジット制度について、制度の概要・特徴や登録から販売までの一連の流れのほか、森林管理クレジットの販売収支や森林組合系統の制度活用へのサポート内容等を説明し、系統として新たな事業展開として検討していただくようお願いした。

環境中で分解しやすいオイル  
生分解度28日で60%以上  
(OECD301C試験による)  
エコマーク認定番号  
第04110009号

**植物油生分解性オイル**  
YSバイオ  
**チェーンオイル**  
特許 第3513132号

**森林に優しい  
チェーンソー専用オイル**

服に付いた油汚れが洗剤で落とせる抜群のスベリでチェーンやバーの摩耗を防ぐ  
荷姿/4Lポリ・18L缶(オールシーズンタイプ) ※エンジンオイル・食用油としては、使用できません。

## 令和5年度 伐倒技術者育成講習 Check&Clinic研修 開催

本県の林業現場の災害のうち、伐木造材作業に伴うものが約7割を超え、そのうちチェーンソーによる伐木作業が約6割を占めています。また大径化する立木や手入れ不足の森林においては、より正確な伐倒技術の習得による安全な伐倒作業が求められております。

そこで本年度についても労働災害の減少に向け、県が導

入した伐倒練習機を活用したCheck&Clinic研修が新たな人材を対象者とした新規研修と、前年度、本研修を受講した者のフォローアップ研修の2種類が開催された。

新規研修は6月19日から7月7日の期間で9日間開催され、受講者は3名。フォローアップ研修は7月11日から13日までの3日間で、2名の受講者であった。

講師は、指導者養成研修でもお馴染みのWoodsman Workshop LLC代表の水野 雅夫氏とサポート役の高澤 愛氏によって行われた。本研修は令和5年度末に開催予定の『指導者養成研修』(OJT指導者研修)※1の受講を見据えた研修となっており、フォローアップ研修はその研修期間の空白時間が長くなることから初めて開催され、前研修からの復習や更なる技術向上目指した研修となった。3日間2名で実施され、個人毎の弱点克服や新たな気づきなど得られたようで、前研修の復習が出来、有効な研修であったのではないかと考えられる。



▲講師 水野氏

今年度の新規研修は前年度まで6日間での開催だったところ、9日間へと期間が延長され、今まで研修内での練習不足になりがちであったStep1及びStep2をさらに重点的に実施を行い改善が施された。

今回も研修初日には座学により、【労災の現状や内容について】、【なぜ正確な伐倒が求められるのか】、【伐倒のメカニズム】など講義が行われた。研修2日目から最終日までは伐倒練習機を活用しての実習が行われ、Step1から10まで、受講者各々技術レベルを確認し、改善点は何なのか?どうしたら改善できるのか?など、自問自答しつつ、他受講者の意見を聞き入れながら研修が行われた。



▲講義の様子

※1 林業の担い手である新規就業者等が、やりがいや将来への期待をもって働くためには、技術や知識を正しく伝える人材が必要不可欠であり、その役割を理解し認識した者の、実践的な指導方法等の技術習得研修。

研修最終日恒例となってきたコンペが開催され、この度の研修からはレベルの高い結果を残すことが出来た受講者がいた。指導者養成研修では昨年度の受講者を踏まえて6名で開催される予定である。どんな研修になるのか今から非常に楽しみである。



▲実習の様子①



▲実習の様子(フォローアップ)



▲実習の様子②

## 第2回 森林組合労働安全対策会議(Web) 開催

今年3月13日に、『群馬県林業現場作業の災害・事故多発警報』が発令されたことを受けて開催した「群馬県林業現場作業の労災多発改善緊急対策会議」(Web)や各森林組合からの安全対策等実施状況報告を内容とした「第1回森林組合労働安全対策会議」を4月13日に開催するなど、系統をあげて安全対策に取り組んだ。しかし残念ながら6月に3回の労働災害発生を受け、極めて憂慮すべき事態となったことから、再度7月18日に『群馬県林業現場作業の災害・事故多発警報』が発令された。この発令を受け、系統としても2度目の「森林組合労働安全対策会議」(Web)を開催した。

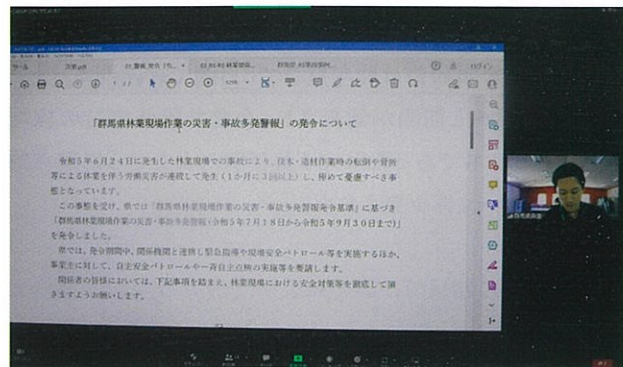
Web会議には、各森林組合の常勤役員・参事等経営管理者・労働安全管理担当者や群馬県職員ら25名が参加した。群馬県環境森林部 森林局 林業振興課 生産強化係 黒岩主任より、『群馬県林業作業現場の災害・事故多発警報』発令の経緯や事故事例、今後の県の取組みや対応策について説明があった。

災害事例をもとに各組合での安全対策会議等の実施で情報共有を行い、更なる安全点検及び災害防止対策の徹底に努め、系統運動にも掲げている「働きがい

のある安心・安全な職場づくり」の実現を進めていきたい。



▲web開催

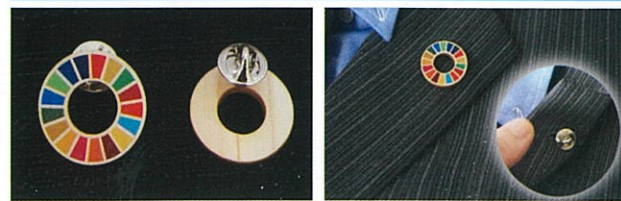


▲web開催

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



### SDGs (持続可能な開発目標) とは?

SDGsとは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

## R5緑の雇用事業実施状況

6月1日のフォレストワーカー (FW) 1年目集合研修 (開講式) より令和5年度「緑の雇用」担い手確保支援事業がスタートした。

開講式の挨拶では県森連 八木原会長より林業の労働災害発生率は全産業から見ても高い産業であり、現場作業は危険が伴う事も十分に認識し、研修中はもとより、常に先輩や指

導者のもとで安全な作業を心がけて欲しいと挨拶があった。

その後は早速研修に入り、群馬県の森林・林業の概要など基礎知識などの講義からスタートした。

1年目研修では、研修開始の6月から7月に森林整備・健康管理・労働安全等の座学 (講義) のカリキュラムが多く、長時間に及ぶ講義に疲労を隠せない研修生もちらほら見受けられることもあったが、どの研修生も真剣に聴講していた。8月下旬以降は玉掛け、小型移動式クレーン講習の受講や、伐倒練習機での林産研修など様々な実習を実施する。

2年目研修については6月19日より集合研修がスタートし、1年目研修での基礎知識の確認とその応用の習得が主な目的の研修項目となる。

また、走行集材機械・不整地運搬などの資格取得講習が多く組まれており、5日間及ぶ車両系建設機械の技能講習があったが、例年に比べ非常に気温が高く、実技講習では熱中症を心配するほどの気温であったが真剣に受講していた。



▲開講式

3年目研修については7月7日よりスタートし、基礎力の向上と大型機械を使用した林業作業の習得が主な研修となる。なお、7月から8月には伐木等機械の運転業務・簡易架線集材装置等の運転業務の受講があり、フォレストワーカー (FW) で取得する12の資格を取得した。9月以降は森林作業道、車両系高性能林業機械等のメンテナンス、高性能林業機械等による造材・集材等の集合研修を実施していく予定である。

フォレストリーダー (FL) 研修については、昨年に引き続き本会が全国森林組合連合会より受託し、7月11日より研修をスタートし、15日間のカリキュラムの実施を予定している。フォレストマネージャー (FM) 研修については、例年通りブロック開催となる。

なお、今年度の研修生数は、FW1年目17名 (内女性1名)、2年目14名、3年目18名、FL研修14名、FM研修5名となっており、今年の異常とも思える真夏日の中で現場作業に従事する研修生においては体調に十分気をつけて研修及び作業にあたって欲しい。



▲集合研修の様子

## 森林組合職員連盟 視察研修(宮城県) 開催

群馬県森林組合職員連盟では、会員の資質向上と交流を目的に県外先進森林組合研修を8月1日、2日の1泊2日で開催し、26名が参加した。

メインの視察先は令和3年全国森林組合大会で農林水産大臣表彰を受賞された登米町森林組合であり、NHK朝ドラ「おかえりモネ」の主人公が勤めていた森林組合のモデルとなった森林組合でもある。

登米町森林組合では、ドラマへの協力の経緯や撮影状況、「百年の森」森林整備の理念、FSC地域協議会の中心としての木材生産・加工流通・PRの取り組み、森林セラピー等々について、ドラマで俳優でんさんが演じたひと昔前の組合名物参事とは異なる、竹中参事のソフトでスマートなわかりやすいご講義をいただき、参加者一同たいへん勉強になり、また感銘を受けた様子であった。

竹中参事は、異業種からの転職で在籍年数は20数年であり、自らチェーンソーで木を伐ったことのない、現場作業にあまり明るくない参事を自認されていたが、他業界からの参入で森林組合を客観視できることが、氏の組織運営管理能力を高めてくれたものと推測された。

さすが農林水産大臣表彰のしっかりとした経営理念と運営管理体制であるが、その根底にはFSC森林認証の取組みがあるということを感じ、竹中参事からも同様のお話があった。FSC等認証材は高く売れるのか?という打算的な見解で認証に関心を持ってない森林組合がほとんどであるが、森林認証の実践は森林組合経営そのものの品質向上に寄与するものであることを再確認した。



▲登米町森林組合 竹中参事

90分にわたる講義の後の質疑応答では、参加者から多くの質問や感想が出され、たいへん有意義な意見交換をさせていただいた。

2日目は、「東日本大震災遺構 語りベツァー」として宿泊地、宮城県南三陸町のいくつかの被災施設（震災遺構）において被災者の方からのガイドを受けた。津波の避難場所となり多くの人の命が救われた施設ながらも、一部は運悪く波にさらわれてしまった人もいたことや、避難し助かったもののその後辛く不便な避難生活など、身を持って体験された方のお話は心を打たれるものがあり、あらためて亡くなられた多く



▲登米町森林組合視察の様子



▲集合写真

の方々のご冥福をお祈りするとともに、いつ起こるか分からない災害への日頃の備えの重要性を再認識した。

参加者の多くは、目頭を熱くしガイドを聞き入っていた様子であった。

県外視察研修は6年ぶりの実施となったが、コロナ禍で長らく自粛していた県内森林組合職員同士の交流が久しぶりに再開でき、ベテラン職員から新規採用者や採用後数年の若手職員まで、優良森林組合の事業運営を学ぶとともに親しく懇親も図れ、とても有意義な研修となった。



▲被災施設(震災遺構)見学

## わたらせ森林組合作成 木製キャンバスを彩る作品

8月25・26日の二日間にJR桐生駅において『駅でペイントワークショップ』with『ドラムサークル』が開催された。

このイベントは、わたらせ森林組合が製作したウッドキャンバスに自由参加でペイントし、一つの作品を作り上げるもので、群馬県と県障害者芸術文化支援センター「こ・ふ・あん」の主催で障害の有無に関わらず、多くの人々が一つの芸術作品の作成体験をすることで共生社会の実現を図ろうとするものです。

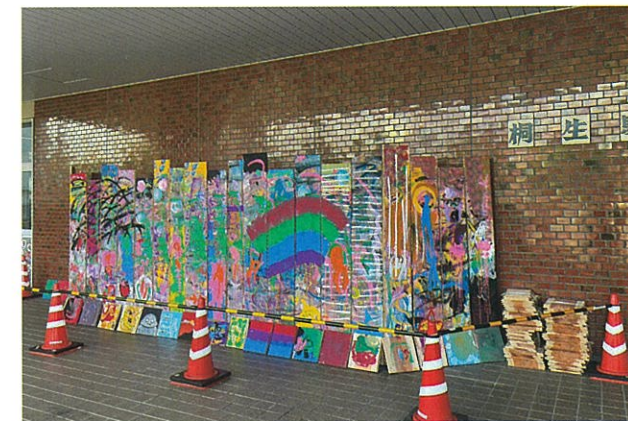
わたらせ森林組合は、このように林福連携を推進し、系統運動とSDGsの実践として取り組んでいる。



▲作成中の様子



▲木製キャンバス



▲完成

**林野庁「緑の雇用」事業**

# 群馬<sup>①</sup>森林の仕事ガイダンス

**参加費無料**  
**事前申込不要**

**林業に興味のある方!**  
**お気軽にお立ち寄りください。//**

**日程** **12.16 2023 (SAT)**

**会場** **ホテルラシーネ新前橋**

**時間** **13:30~16:30 (受付16:00まで)**

※「森林の仕事ガイダンス」は、就業斡旋のためのガイダンスではありません。

森林を育てる・活かす仕事



**お問い合わせ先** 群馬県森林組合連合会 指導課  
**TEL.027-261-0615**

〒379-2153  
前橋市上大島町182-20  
FAX.027-261-0697

**感染症対策を充分に行っていただき、体調がすぐれない場合は来場をお控えください。**

# アフリカ モザンビーク国からの研修生受け入れ 利根沼田森林組合

JICAでは海外森林林業技術協力支援として「モザンビーク国持続可能な森林管理REDOプロジェクト」を実施している。モザンビークでは国土の約48%にあたる約3800万haを森林が占めているが、毎年約22万haの森林が消失しており、広大な国土を有し、人員や予算が限られるなかで国際的基準を満たす持続的森林管理にむけ、政策面、技術面、人材育成面でのさらなる支援が求められている。このため、国レベルの森林モニタリングシステムの構築運用と州レベルでの持続的森林管理に向けた計画策定と森林減少抑制の取組に関する協力を日本政府に要請したことへの対応が本プロジェクトである。

このJICAプロジェクトにおける「日本国での森林計画制度及び森林管理技術 現地研修」が5月に約10日間実施され、このうちの1カリキュラムとしての「民有林における森林整備、森林認証の取り組み現地視察」でモザンビークからの研修生5人が5月21日に利根沼田森林組合を訪問した。

現地視察では、森林組合組織と運営管理、森林経営計画の策定、組合員からの施業受託と事業費精算、SGEC森林認証への取組等について説明を受け、意見交換を行った。研修生はいずれも同国土地環境省森林管理局や州環境サービス局の管理職（所属長）でうち3人が女性であったが、民有林の森林整備方針の決定過程や生産木材の用途や販ルート、森林組合の収益構造や組合員から施業受託成果としての精算（収益の分配）等について鋭い質問をいただいた。

モザンビークでの木材利用は燃料用材が最も多く、森林土地利用権の分配管理が国・州の担当職員の職務のひとつとなっているが、外国資本による植林ビジネスも拡大しており、この調整管理も課題となっているとのことであった。

この後、川場村内の施業現場においてハーベスタによる伐倒・造材の状況や皆伐跡地へのカラマツ再造林現場等で、高性能林業機械の生産性と持続的森林資源循環活用を現地見学し、我が国の森林施業技術水準について感心された様子であった。

研修生のリーダーである土地環境省森林管理部長の女性からは「貴組合の施業現場を訪れた最初のアフリカ人として光栄です。帰国後は日本の森林政策を参考に貴組

合のような高度な森林管理体制を目指したい。できればモザンビークでも森林組合を創設したいので、その際は現地で皆さんに指導いただきたい。」と最後にリップサービスを込めたお礼のあいさつをいただいた。

なお、本県においてはこの他群馬県庁で地域森林計画の策定管理をはじめとする県の森林政策や、みなかみ町役場で市町村森林整備計画やユネスコエコパークの取組等についての現地ヒアリングも実施された。



▲現地視察の様子



▲意見交換



▲集合写真

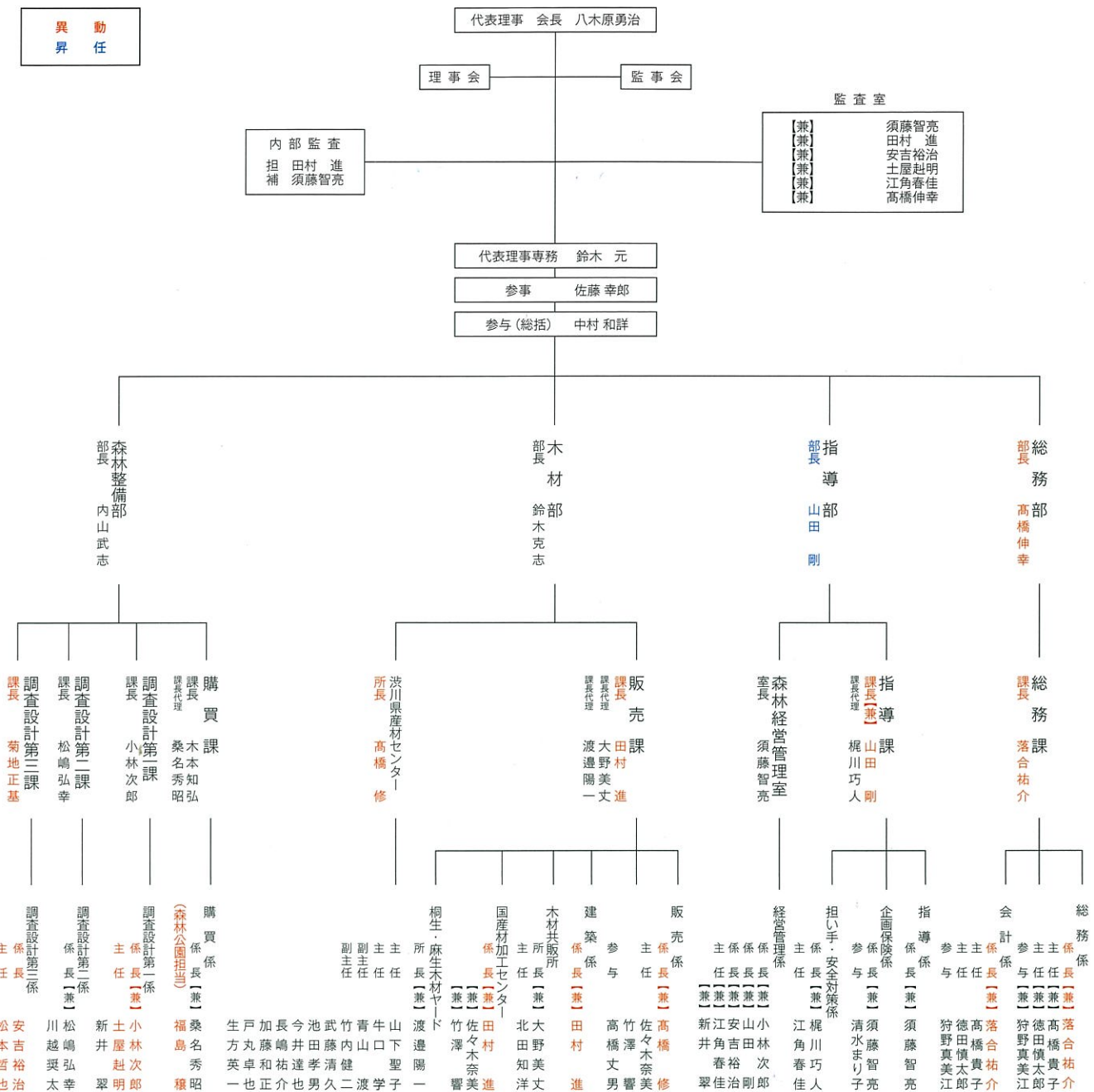
# 県森連 人事異動及び機構改正

県森連人事異動 県森連の人事異動が令和5年9月1日に次の通り発令となった。(敬称略)

| 氏名    | 新職名  | 旧職名   | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 佐藤 幸郎 | 参事   | 参事<br>(兼)総務部 部長                                     | 異動 |
| 高橋 伸幸 | 総務部 部長   | 指導部 部長  | 異動 |
| 山田 剛  | 指導部 部長<br>(兼)指導課 課長<br>(兼)森林経営管理室 経営管理係 係長                   | 指導部 指導課 課長<br>(兼)森林経営管理室 係長                         | 昇任 |
| 落合 祐介 | 総務部 総務課 課長<br>(兼)総務係 係長<br>(兼)会計係 係長                         | 森林整備部 調査設計第三課 課長<br>(兼)調査設計第三係 係長                   | 異動 |
| 田村 進  | 木材部 販売課 課長<br>(兼)建築係 係長<br>(兼)国産材加工センター 係長                   | 木材部 渋川県産材センター 所長<br>(兼)販売課 販売係 係長                   | 異動 |
| 高橋 修  | 木材部 渋川県産材センター 所長<br>(兼)販売課 販売係 係長                            | 木材部 販売課 課長<br>(兼)建築係 係長<br>(兼)国産材加工センター 係長          | 異動 |
| 小林 次郎 | 森林整備部 調査設計第一課 課長<br>(兼)調査設計第一係 係長<br>(兼)指導部 森林経営管理室 経営管理係 係長 | 森林整備部 調査設計第一課 課長<br>(兼)指導部 森林経営管理室 経営管理係 係長         | 異動 |
| 菊池 正基 | 森林整備部 調査設計第三課 課長   | 総務部 総務課 課長<br>(兼)総務係 係長<br>(兼)会計係 係長                | 異動 |
| 安吉 裕治 | 森林整備部 調査設計第三課 調査設計第三係 係長<br>(兼)指導部 森林経営管理室 経営管理係 係長          | 森林整備部 調査設計第一課 調査設計第一係 係長<br>(兼)指導部 森林経営管理室 経営管理係 係長 | 異動 |
| 松本 哲也 | 森林整備部 調査設計第三課 調査設計第三係 主任                                     | 森林整備部 購買課 購買係 主任(森林公園担当)                            | 異動 |
| 土屋 昶明 | 森林整備部 調査設計第一課 調査設計第一係 主任                                     | 森林整備部 調査設計第三課 調査設計第三係 主任                            | 異動 |
| 福島 穰  | 森林整備部 購買課 購買係 (森林公園担当)                                       | 森林整備部 購買課 購買係                                       | 異動 |

運営機構図及び役職員の配置状況

令和5年9月1日現在



あとがき

暦の上では秋になったものの、まだまだ残暑が続いている日々ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？日本気象協会によると本県桐生市が、1994年大分県日田市が記録していた年間猛暑日数を更新しました。このことから今夏の猛暑は異常気象といえる高温だったようです。

地球の温暖化が進むと、気温上昇や雨量増加、海面上昇などが生じ、台風、熱波やエルニーニョなどの異常気象も頻度が増し、災害の増加が懸念されます。

我々森林組合系統は丸一となってこれら問題に対して、森林整備を推進し、森林の持つ多面的機能の効果を発揮させ、温室効果ガスの吸収力を高めることで気候変動の影響緩和に貢献できればと思います。



(須藤)